

滋賀県議会議員 駒井千代 活動レポート

Club CHIYO vol. 7

FB:Chiyo Komai 駒井千代

Maii: info@komaichiyo.net tel&fax: 077-562-3304

2025年度は、大阪関西万博、国スポ障スポ大会が開催され、国内外の多くの方に滋賀を知っていただく機会となりました。

2027年10月1日～12月31日で実施される27年ぶりのデスティネーションキャンペーンのキャッチコピーは「癒しがいっぱいシガリズム」となりました。

今年はプレデスティネーションキャンペーンが実施されます。

住む人も訪れる人も癒される環境づくりに向けて、今後も取り組んで参ります。



編集発行:こまい千代事務所

草津市南笠東3-4-8

草津市立玉川小学校卒業
草津市立老上中学校卒業
滋賀県立石山高校卒業
早稲田大学法学部(刑法)卒業

2026年3月発行

～ 思いをつなげて未来を創る create our future ～

滋賀県議会議員 さざなみ倶楽部

駒井千代

自動運転実証事業

以前、岐阜市での自動運転の実証事業を調査し紹介しましたが、滋賀県でもようやく同種の実証事業が彦根市にて実施され、お披露目会に参加しました。

今年度は、特別委員会でも地域公共交通計画について議論してきました。県政アンケートでも公共交通に関する不満度は高く、特に今年度は法改正の影響もあり、各地で減便がされたことで、より地域でも充実を求める声を聞くようになっています。

担い手不足は公共交通も同様であり、自動運転の導入を更に進めて、公共交通の利便性の向上を図ることが必要と考えています。



滋賀県立美術館の今後

現在、滋賀県立美術館は、整備計画をつくり、新たに子どもも大人もきたくなる未来をひらく美術館に向けて、再整備すべく準備を進めています。常設展も保有するコレクションを順に展示され、訪れる度に楽しめるよう工夫がされています。

フランスのポンピドゥーセンターのキッズ向けの取り組みを参考に、子どもたちがアートに触れる場やアールブリュットの作品は、更なるARTの世界を広げる場となることを期待します。

と同時に、県内にはクリエイターの方も多く、この場が交流の場や滋賀の底力を知ることのできる拠点ともなり、新たな観光スポットとなるようソフト面での取り組みも進めていきます。



滋賀県産いちご『みおしずく』

滋賀県農業技術振興センターにて開発をしました“みおしずく”のプロモーション事業の一環で、スーパーの店頭での試食のお手伝いに行ってきました。

店頭に立つと「名前は知っているけれど、食べたことがない」との声も多く、試食は好評で、現場の声を聴くことができました。日曜でもあり、手土産としてまとめて購入もいただきました。

今年は生産量も増え、県内外へと出荷が進んできています。



①世界湖沼会議での琵琶湖博物館の発表について

琵琶湖博物館は世界の湖沼との繋がりがあること、環境学習センターがあることから学芸員の現地発表やセッションのコーディネーターなど積極的な参加発表があってもいいのではないかと？

→琵琶湖の研究を通じて世界の湖沼問題の解決に貢献するのも重要な役割。専門性やネットワークを活かして必要な役割を積極的に果たしていきたい。

②ナイトミュージアム事業の方向性について

→開館30周年記念のオープニングイベントの一環として3月頃に実施予定。広く一般向けとホテルやレストラン等と連携した特別企画の2回を実施。夜でしか体験できない新たな魅力を多くの方に伝えるようにしていきたい。

③夜のバスの便が通常だと少ないと思うがどうするのか

→バスの増便など公共交通事業者等と連携して公共交通でも来館しやすいよう準備を進めたい。（自家用車から公共交通の誘導にもなる日本酒の提供も予定）

④今年度から3路線が定期航路となった湖上交通について。

雄琴温泉と草津烏丸半島は片道15分 500円でとても魅力的。

しかし、烏丸半島発は12時半、15時半で日帰りには慌ただしい。一方、雄琴温泉発は9時、12時のため、そもそも日帰りでは戻れないダイヤ。今後、道の駅草津の改修、人工サーフィン施設建設でレクリエーションエリアとしての烏丸半島と、温泉の雄琴エリアを盛り上げていくためにも相互魅力向上に向けて取組んでいく必要があるのではないかと。

→県の呼びかけで関係者で連絡調整会議を開催しているところ。より魅力的な湖上交通になるよう取組んでいく。

⑤琵琶湖博物館の駐車場利用について

雄琴温泉に宿泊するには、車で港に来た人は一晩留め置くことになる。現状の体制では対応できないことから駐車場の在り方検討をしていくべきではないか。

→主に博物館利用者のための駐車場として条例に基づき、時間外は閉鎖。将来的な需要の高まり等も踏まえながら、どのような運営が望ましいのか、研究していきたい。

⑥大人版「UMINOKO」について

→これまでも経済団体実施で学芸員が説明、市民グループ実施でもプランクトン観察会の実施に協力をしている。更に広がるよう、相談対応、情報提供、更に講師紹介等のコーディネートに努めていきたい。

⑦再来年度はディステーションキャンペーン。琵琶湖博物館と草津烏丸半島の役割について

→いろんなトライアルをしながら新たなコンテンツづくりという観点から、部局をあげて、超えて、連携しながら取組みを試行できるようにしていきたい。

※船着き場の表示は、県産木材を使用した案内標識の設置を進めることとなっています。

※3月に開催された琵琶湖博物館のナイトミュージアムは、宿泊とセットのツアーは完売。8日当日も多くの方で賑わいましたが、車で来場も多く、交通渋滞が生じるなど、今後の実施に向けて改善する点もありました。

観光としての烏丸半島エリアにおける琵琶湖博物館の役割として、開館30年を向かえ、より魅力的となるよう取組んでまいります。

新たな湖上交通3ルートのご案内はこちら→



※大人版「UMINOKO」。私も小学校5年生の時にうみのこに乗船し、透明度を測ったことなどは今でも忘れられません。ニカラグアで観光船を利用した海外版「UMINOKO」が現地の子供たちの環境学習の広がりにつながっている報告を聞き、滋賀県でも、琵琶湖を感じながら、より多くの方が楽しく環境を学べる、大人版の「UMINOKO」の広がりを期待します（船内を木質化し、森川里湖のつながり、世界農業遺産なども学べる多彩なメニューへと関係者の繋がりでできればと思います）

【大津港活性化 再整備基本構想策定】

20年後の大津港の目指す姿をRe:PortOTSU/BIWAKOとし、暮らす人の日常的利用の豊かさがあり、訪れる人もその魅力に触れ、非日常的な体験を楽しめる状態としています。

この地には、新しい琵琶湖文化館の開館が令和9年に予定され、港からの湖上交通の活性化、災害時における港湾の強化などで県も関わっています。

これまで何度も伺い、木育推進拠点として整備を進めている野洲の近江富士花緑公園。8月に「しがモック」がオープンしたことから、現状と課題について質問しました。

①しがモックがオープンしてからの状況について

→オープン後開館日18日間での来場は計5,852人の方が利用。特に8月末までの夏休み期間中と土日祝日には一日平均365人の利用。「木の香り、肌触りがとてもよかった」「遊ぶものがたくさんあるので、長く遊べる」などの感想をいただき、ほとんどの方がまた来館したいと回答。

一方、休日には利用者の集中により、定員を超えることが多く、入場制限を実施する状況。

②事前予約制の導入について

→9月から休日は、整理券を各回開始前に配布し、一日を3部入れ替え制で実施。インターネットを利用した事前予約制のできるだけ早い導入を検討中。

③団体利用に向けての課題について

→団体利用や貸切利用について、学校やこども園、放課後児童クラブなどから大変多くの問い合わせがある。一般の利用者への影響、障害のある方や医療的ケアが必要な方への対応、更に複数のクラスで順番に利用したいなど、個別要望への対応などの課題がある。

（再質問）課題解決について。公園全体や希望が丘文化公園と合わせた利用の提案などもしては？

→専用の問合せ番号を案内し、事前相談の上、予約していただく。

一般客とのバランスを考慮した予約、事前に下見をしていただき、必要な配慮の聞き取り、運営スタッフの増員などの対応を検討。近江富士花緑公園、希望が丘の利用も提案しながら、多くの方々の希望に添えるよう努力していきたい。

④ワークショップ室の利活用について

→イベント利用などを除くと十分に活用できていない。

小学生以上の児童でも楽しめるような、例えばゲーム性のあるような木のおもちゃを設置するなど検討していきたい。

⑤森林実習館のスペースの利用について

→県の林業普及センターが管理する施設であり、滋賀もりづくりアカデミーなどの林業の担い手を育成する研修施設。公用施設として土日祝日は閉館。管理上、一般開放はしていないが、連携しながら県主催の木育イベントを開催するなど検討していきたい。

⑥芝生エリアでの利用について

→林業普及センターが管理する公用施設の一部であり、マルシェや木育イベントを自由に実施できない状況。将来的には、芝生エリアを公園の指定管理区域にすることも含めて、木育拠点としての利便性、魅力を高められるよう様々な検討をしていきたい。

⑦他団体との連携について

→2023年に策定した「つなぐ『しが木育』指針」においては、拠点となる木育施設を整備、これと共に多様な主体と連携して取組むことを定めている。木材関係団体や大学、子育て支援団体などと連携し、現在取組を進めているところ。

昨年度末のローム株式会社による近江富士花緑公園の再整備、今年8月のしがモックのオープン、更に今後実施予定のウッディルームの改修や林業普及センター多目的室の整備により、今年度末にはランドオープンを迎える予定。

今後、地元の野洲市はもとより、森林組合、大学、企業等とも連携し、人材育成、担い手確保にもつながる取組を行うことで、木育拠点としての機能を最大限発揮し、「しが木育」の実現を目指していきたい。

議会記録はこちら→



しが木育イベント

後日、会派で改修中のウッディルームや工事中の多目的室の状況を調査し、3月21日に開催されたしが木育イベントにて、イベントの様子や完成した部屋を見てきました。

芝生広場の周りにはキッチンカーや体験ブースもあり、吹奏楽やオカリナ、和太鼓の披露がありました。

森林実習館では、高性能林業機械シミュレーター体験なども実施され、高校生も楽しんでいました。連携しながらのイベントは、今後も継続して行っていただきたいと思います。



女性都道府県議会議員の会研修

今回は栃木県にて開催しました。
小俣幼児生活団では、昔ながらの屋敷敷地内でのモンテッソーリ教育について伺いました。
日光市役所では、インバウンド観光戦略とオーバーツーリズムについて。
栃木県庁では、プロスポーツとのかかわり、フィルムコミッション、LRTについて。
滋賀県との比較をしながら意見交換をしてきました。良さを滋賀でも活かしていきます。



多様な教育の推進に向けて

子ども若者教育常任委員会では、熊本県や福岡県の多様な公立高校について県外調査を実施しました。

現在、滋賀県では2023年に高等学校魅力化プランとして、多様な学び、高大連携、産業教育、生活・スポーツ・芸術系とそれぞれ重点を置きながら高校改革に取り組んできました。

今年からはあり方検討会を開催し、少子化や多様なニーズにどう対応していくのか、更に検討を進めています。

他府県では普通科と商業科などの併合もあり、またオンライン配信についての取り組みなど、今後の参考としていきます。

また、県立図書館のあり方検討も始まり、子ども本の森くまもとも調査しました。



編集後記

今年度は決算委員会のメンバーとして決算審査にもあたりました。

昨年度は監査委員として、各地へ赴いての監査などもしてまいりましたが、決算委員会は終日とはいえ、数日で各部署の審査を実施します。資料や説明の改善も求めながら、よりよく決算審査できる体制づくりにも、議会として取り組んでいます。

ブラジル45周年交流

滋賀県とブラジルのリオ・グランデ・ド・スール州とは湖のご縁があり、この度45周年を迎えました。

40周年の際には予算質問も致しましたが、直後にコロナ禍となり訪問交流は中止。5年を経ての交流です。

ブラジル サンパウロではまず、マウリシオ・デソウザ・プロダクションに訪問。ご本人は過去来県されたこともあります。ブラジルでのマンガ・アニメの84%近くを占め、手塚治虫氏との親交もあり、ブラジルの子ども達の間で有名です。

サンパウロ総領事館では、昨年がブラジルとの外交関係樹立130周年の友好交流年であり、経済交流や互いの地での7世8世の世代への文化言語の継承など幅広く議論しました。

ブラジル日本移民資料館では、滋賀県から開拓民として海を渡ったのが1203名と記録されています。また、ブラジル滋賀県人会との交流、日本移民開拓先没者慰霊碑への献花や日本館訪問、イボチ移住資料館訪問、イボチ日系人会との交流なども実施しました。

リオ・グランデ・ド・スール州では、南日伯援護協会との交流。

これらの訪問や交流で、日本移民による文化の伝承や開拓時における伝染病などの困難、それを支えて来られた方々の話を伺いました。

レイテ州知事との共同宣言は、①経済 文化 スポーツを通じた若者の交流②災害を乗り越えるべく治水 農業の知見を共有③世界湖沼の日を世界へ発信④人的交流を活発化し、人材育成に努める

また、州議会議長との交流も実施しました。



他にも滋賀公園への桜の植樹。RS州日本祭り、JAPAN HOUSEでの滋賀のPR。パトス湖の視察などをしてきました。



それぞれの文化の違いはあれど価値を共有する。違いを対立にせず、それぞれ良さを活かし、互いを認め合う間柄に・・・

